

山形市立第二中学校、山形市立山寺小・中学校と協働研究を開始

～『CBT for school』を導入し、基礎学力の育成やプログラミング教育を推進～

株式会社スプリックス（本部：東京都豊島区／代表取締役社長：常石博之）は、山形市立第二中学校（校長：小関広明）、山形市立山寺小・中学校（校長：高橋郁子）との協働研究を開始いたします。スプリックスが開発した基礎学力・プログラミング・主要教科の理解を評価できる、3つのCBT(Computer Based Testing)を学校向けにパッケージ化したCBT for schoolを提供し、基礎的・基本的な知識・技能をはじめとした確かな学力を定着させる授業デザインや、教員の働き方改革に関する事例をともに創造します。

『CBT for school』公式Webサイト：<https://www.cbt-for-school.com/>



1. 協働研究の背景

CBT for schoolは、2023年9月末時点で受験者数が350万人を超えたTOFASをはじめとした3つのCBTから成る学校向けパッケージです。2021年11月に開始して以来、日本の公教育において導入が拡大しており、山形県では酒田市において既に正式採用されています。一方、山形市では、山形市教育大綱・山形市教育振興基本計画のもと、学校を創る重点の1つに「魅力ある学校づくり」を掲げ、確かな学力の育成や時代の変化に対応した教育施策を進めております。また、市としてデジタル技術を活用したスマートシティの推進に取り組んでおり、学校教育のICT化に向けた整備も積極的です。

2. 具体的な内容

山形市立第二中学校

2023年度において、CBT活用のあり方に関して教員による検討が進められました。2024年4月から、各教科の特性や実態に合わせて、基礎学力CBTのTOFASや学校現場の声をもとに開発された単元別テスト等の活用による基礎・基本の確かな定着に向けた研究を開始します。

山形市立山寺小・中学校

小学校が特認校に指定されている同校では、特色ある環境の中で小中一貫教育を推進しています。情報活用能力は学習の基盤となる資質能力であり、教科横断的に育成するものと捉えています。CBT for schoolの内、プログラミングの能力を測るプロ検を試行することで、同校のプログラミング教育を評価・点検していきます。

3. 各校長からのコメント

山形市立第二中学校 校長 小関広明 氏

本校では、「未来に向かって主体的に生きぬく生徒の育成」を学校教育目標に掲げており、生徒どうしの話し合いを大切にしながら協働的な学びを展開しています。その土台となるのが、基礎的・基本的な知識・技能です。CBT for schoolを活用して、教員の業務効率化を進めながら基礎学力の確かな定着を図っていきたくと考えております。

News Release

山形市立山寺小・中学校 校長 高橋郁子 氏

小中一貫教育や少人数教育の強みを生かした活動を展開する中で、児童の学習意欲に目を向けると、プログラミングに対する関心が高まっていることを実感しています。その関心を更に伸ばし能力として可視化することで、適切な指導に繋げていきたいと思
います。